

症例を通して 腎臓疾患の中医診療を語る

中日友好病院中医心腎内科 教授 杜 金行

慢性の腎臓疾患は中医内科の治療が優勢な領域の一つである。本講演では補腎健脾温陽法による高齢者のネフローゼ症候群、補腎利水法によるB型肝炎に続発する膜性腎症、大剤で治癒した第I期膜性腎症、補腎健脾活血法による膜増生性腎炎、解毒補腎法によるIgA腎症、温通心陽補氣利水法による心腎症候群の治療を紹介して、腎疾患の治療のいくつかの原則を提示する。

1. 慢性の腎疾患では浮腫、蛋白尿、血尿、尿量減少または尿閉、腰部不快などの症候が現れる。これらに基づき臓腑弁証の角度から観察すると、絶対的多数が中医の腎の病である。
2. 中医の角度からいえば、腎は蔵精、生殖を主り、骨を主管し髓を生み、納気を主り、二便に関与する。また、腎病を診断治療する視点からみれば、多くは腎の主水機能と関係している。当然、脾の運化、肺の通調水道、肝の疏泄、三焦の決瀆機能と関連している。
3. 八綱弁証の立場からいえば、陰陽・表裏・寒熱・虚実は弁証の総綱である。中医の弁証には、ほかに臓腑弁証、気血津液弁証、六経弁証、衛気營血弁証などがあり、互いに組み合わせることができる。各弁証法には適応範囲があり、腎疾患の弁証では普通、八綱、臓腑、気血弁証を用いる。とりわけ気血水の相互関係が重要である。
4. 文献調査と経験によれば、蛋白尿とりわけ大量の蛋白尿は陽（気）虚が主、血尿は陰（血）虚が主である。腎不全の段階に至れば多くは虚実夾雑が主となる。透析導入後は虚が主となる。
5. 中西医結合の観点からみれば、瘀血とは経絡不通、汚濁の血、離経（経絡から漏れだした）の血を指す。腎疾患に罹患すると局所の循環が瘀滞し、血液粘度が高くなったり代謝産物が貯留することが多くなる。したがって活血化瘀法は腎の線維化を予防するために腎疾患では終始貫徹される治法である。
6. ステロイドを併用する場合、副作用の軽減にも中薬を用いる。ステロイド大量使用の場合、陰虚陽亢水停（湿阻）証を呈しており、知柏地黄丸加減を用いる。ステロイドを減量し、0.4mg/kg以下になれば温陽を主とする。

7. 利水の諸方を列举すると、五苓散、猪苓湯、真武湯、四妙散（二妙散）、五皮飲、濟生腎氣丸、柴苓湯、防己黃耆湯、疏鑿飲子などがあり、補腎の諸方には參耆地黄湯など地黄丸の類、活血の諸方には桃紅四物湯、補陽還五湯、昇解通瘀湯、当歸補血湯など、虛実夾雜証の諸方には温脾湯、三仁湯、越鞠保和丸など、止血の諸方には小薊飲子、十灰散などがある。
8. 単驗方。降蛋白薬として絡石藤、鬼箭羽、穿山竜、白花蛇舌草などを用いる。利尿薬として玉米須、冬瓜皮、通草、石葦などを用いる。活血化瘀薬として川芎、紅花、当歸、丹參、三棱など、止血薬として白茅根、芦根、側柏葉、藕節、荷葉、茜草、芋麻根などを用いる。
9. 現代の中西薬。雷公藤製剤、黄葵カプセル、冬虫夏草製剤、腎炎四味片、腎炎康復片など。
10. 中西医にしる中西医結合の治療にしる腎疾患は経過が比較的長いので効果があれば処方を変更せずに続ける。